

知識を知恵に変える方法（その2）

- 【Ⅰ】差の情報によって意思決定する。
 - 【Ⅱ】価値の方向とキーワードを目に見えるようにする。
 - 【Ⅲ】落ちのない段階的な手順を創り出す。
 - 【Ⅳ】「何を」の対象の構造・構成イメージを創り出す。
 - 【Ⅴ】これを実現するための体制と手順を示す実施計画書を創り出す。
-

【Ⅱ】価値の方向とキーワードを目に見えるようにする。
価値の方向を見いだすために、先に述べたPMD手法を用いるが、そのまとめ方は次の三つの問いに答えるものでなければならない。

（1）要するに、何をするため？（抽象的目的）

要するに、テーマを目に見える形で表すことである。

できれば名詞または名詞句で表現することがわかりやすく良い。

例；「〇〇の作成」「〇〇を作成すること」・・・どちらかというと前者が適当

（2）要するに、どうするのか？（メイン・キー）

（1）のテーマに沿って具体的にどうするのかを考えて、目に見える形で表し、それを手順あるいは順序よく並べることである。

例；「〇〇を△△する」という表現で書き出す。

これは手順的に同列が存在してもかまわないし、逆順が生じた場合は「〇〇をして□□する」として下から上へ読みあがってもかまわない。

（3）要するに、どうしさえすればよいのか？（PMD素案の完成）

こうして出来上がったPMDのキーワードの流れを整理して、コンパクトに皆が見えるようにする。すなわち、どこから手をつけるかが定まるのである。

ここで大事なことは、メインキーワード（目的の結果を表す）の表現について対立する意見があった場合には、徹底して議論して一つに定めることである。

また進捗に応じて修正、調整は当然同じ手順で行い、常にベクトルの一致に心がけなければならない。

この段階は、特に論理的展開を明確にして、知恵を結集するためには非常に重要であるので、各問いを反復して自分に対して行う習慣を身につけるとともに、目に見える形で表現することにも心がけよう。

ホワイトボードなどは、このフェーズで頻繁に使用されるべき器具であるので、活用してみても如何。

（以下次号）